

スケッチクラブ創設15周年記念

スケッチクラブ十五年を過して

長岡 信幸

「スケッチを通して自然を見つめてみよう」これがクラブを作った理由の一つだ。「気づき」がないと先に進まない。「立ち止まり」「直視し」「ふり返る」つまり自然と対峙して、時間、空間を肌で感じ取る・・・ということかも知れない。人それぞれに記憶に留める手法は異なっていてよい。「振り返り」「歩き出す」その原点は確かな記録を手がかりにすることから始まる。「前を見て歩き出す」には「確かな記録」を手がかりにするのがよい。そんな「くり返し」が、今のスケッチクラブだと思っている。

学級委員長

大場 靖之

会員は例年十四人〜二十人までの間。出席率は七十パーセント程度。自然と相手なので天候に左右されるのは仕方ないこと。

以前は月山山頂小屋など外泊の企画もあったが、寄る年波か、その分作品の出来映えでカバーする会員も？ 県展入賞者二人、しかも三年連続も!!大いに評価すべきである。

今年がクラブ発足十五年目、この記念すべき年に長岡先生が米寿をお迎えになられた。特筆すべきことである。



斎藤 八重

月山に魅せられて春の残雪を踏み早咲きの花々を眺め、夏山の山頂での御来光に感動し、真紅に染まる秋の山行を楽しみながら過ごしている時に、自然博物館のスケッチクラブに入会する機会を得ました。自然博物館のトレイルにはブナやナラ等の巨木が生い茂り、植生も多くその名前を覚えるのに苦労しております。スケッチクラブに入会して十数年になりましたが、適切な指導と多くの心温まる仲間達と共に上達のしないスケッチを描きながら自然の豊かさを楽しんでおります。

田中 友子

私がスケッチクラブに入会してから十年になる。何とどうスケッチすればよいのかわからず先輩に聞くと「見たとおり描けばいいんだよ」と言われて初めてスケッチしたのがブナの木一本でした。今、私は月一回自然博物館に行き、仲間と一緒に長岡先生の話を聞きながら園内を歩き、スケッチするのがとても楽しいです。そしてブナ林の四季を見るのが楽しみです。それに二時間足らずでスケッチした絵を自然博物館に展示していただき感謝しています。



『昔からお世話になってます』

五十嵐 澄枝

月山湖も国道112号も未だない頃、半日かけて月山春スキーに行った。広大な斜面、ザラメ雪を思いっきり蹴り込んでゆく快感、リフト待たの時はヒルネ。民宿は水没予定の本道寺の大きな農家で、山菜採りを教えてもらった。快晴に誘われスキーをかっぎ月山山頂へ。でもダウンヒル向きの斜面でなくヒートヒート。夏、大雨の中、湯殿山から羽黒まで単独行。下って宿泊した羽黒の宿坊のおかみさんに「高校生だから千円まけっから」といわれ「三十すぎてます」とも言えず、等々。スキーの帰り一回だけ自然博物館に寄ったことがある。ガイドは工藤さんでしたね。

二〇〇五年の五月かな、友人達とつれ自然博物館に行き雪上歩きをした。その時カウンターのスケッチクラブのチラシが！それから往復二一〇キロ余りを通っている。ブナ林の中にも大斜面をカッ飛んでいる自分が感じられるから。